

専門教育科目一覧

科目名	科目内容
メディカル・プロフェッショナルリズム	入学から卒業までの6年間を通じて、プロフェッショナルリズムの基本となる「医師としての責務」「コミュニケーション・スキル」「生命・医療・研究の倫理」「法の理解」「医療安全」「説明責任」などを、対話型講義やグループ・ディスカッションにより学びます。

行動科学	人類学、心理学、生物学、社会科学、疫学、公衆衛生学、精神医学などの観点から、「人間の行動と心理を理解する」ことを目標とします。ストレス、対人コミュニケーション、行動変容、行動の科学的背景、行動医学の健康と疾病、医療(診断、治療、リハビリテーション)への応用について学びます。
分子生物学Ⅰ	遺伝情報発現のセントラルドグマを中心として、広範囲な内容を最新の知識も交えて講義します。後半では、医学研究と分子生物学の接点について学ぶ機会をもちます。分子生物学ⅡやMCBなどの科目への移行の円滑化を図ります。
英語Ⅲ	医学英語コース(半期、4クラス各30名程度)とスキル別コース(半期選択、12クラス各10名程度)を演習主体で行います。スキル別コースは(A)総合的英語力の育成、(B)口頭表現力の養成、(C)文章表現力の養成を主眼とするクラスに分けます。前年度の学習成果と各人の希望を勘案し、クラス編成をその都度変えます。
分子生物学Ⅱ	分子生物学Ⅰの講義をさらに発展させ、真核生物の遺伝子発現制御機構を講義します。併せて、遺伝子工学などの基礎的な実験手法を実習で学びます。
組織学	各臓器の顕微鏡レベルでの構築から細胞生物学までの広い視野に立ち、人体の微細構造について学習し、併せて微細構造研究のための方法論なども教授します。
解剖・発生学Ⅰ	医学の登竜門である解剖学、つまり人のからだはどのような構造になっているのか、そしてどのように造られていくかを肉眼解剖実習、講義を通じて学びます。
解剖・発生学Ⅱ	発生学及び骨学の総論、頭頸部内臓解剖学、神経解剖学が含まれます。人体の主に頭頸部と脳神経系の構造とその発生過程について、実習と講義を通して学びます。
生理学Ⅰ	視覚・聴覚などの感覚系、骨格筋・平滑筋・心筋などの筋肉系、そして中枢神経・末梢神経からなる神経系など、電気現象を主体とした人体の機能を理解するために講義と実習を行います。
生理学Ⅱ	脳以外の人体の各臓器の生理機能、例えば尿の生成機構、消化、吸収のメカニズムや人体の内分泌機能について解説し、実習を行います。
医化学	医学の基礎をなす体内あるいは細胞内での化学現象、化学反応など生化学の原理と病態生化学など、他の境界領域についての講義を行い、分子レベルでの思考力を育てます。
病理学総論	疾病の概念および、その成り立ちを形態学の立場から理解することを目的とします。テーマは「細胞の分化、増殖と障害」「炎症、免疫、感染」「腫瘍」「循環障害」などです。
病理学各論	病理学総論で学んだ知識を基に、具体的疾患について、器官、臓器別に学んでいきます。形態学に基づいた古典的アプローチに、最新の知見を盛り込むことで理解を深めます。実習では、実際の病理組織標本を観察します。
医学統計・医療情報	医学研究のデザインから評価にいたるさまざまなプロセスで用いられる統計学について、その理論的背景から医学研究における応用までを学びます。講義に加え、PCを用いたデータハンドリングの実習を行います。また適切な医療情報の使い方についても学びます。
英語Ⅳ	英語Ⅲの2コースの内容をレベルを上げて行います。スキル別コースは(A)総合的英語力の育成、(B)口頭表現力の養成を主眼とするクラス(8クラス各15名程度)に分けます。前年度の学習成果と各人の希望を勘案し、クラス編成をその都度変えます。
MCB	MCB(Molecular Cell Biology)は、生物学特論や分子生物学Ⅰ・Ⅱなどの生物学系科目を学んだ後に、最先端の医学・生物学研究を学ぶ科目です。基礎と臨床の両方の視点をもつPhysician Scientist(科学的思考力をもつ医師)になる土台を築きます。

基礎・社会医学系科目

科目名	科目内容
微生物学	病原性細菌・ウイルス・真菌による感染成立過程、宿主応答、疾患、治療法を講義・実習を通して学びます。常在微生物との関連性についても学習します。
免疫学	病原微生物に対する生体防御反応を理解するとともに、アレルギー、自己免疫疾患の成立機序や治療法、移植や癌に対する免疫反応を学びます。さらに抗体産生など実際の免疫応答を体感できるような実習を行います。
熱帯医学・寄生虫学	グローバルな視点で見たときに重要な熱帯病について、その公衆衛生上の意味、臨床像などに関して講義が行われ、各疾患ごとに基礎的な診断法を実習で学びます。
薬理学	疾病の治療、予防および健康保持の上から重要な薬の作用機序、機序を理解させ、臨床医学における薬物療法の科学的な基礎を修得させるため講義、実習を行います。
衛生学Ⅰ	疫学、予防医学についての講義、演習を行い、Evidence-Based Medicineの基礎となる疫学の理論と技法を学ぶとともに、ライフコースに沿った予防についての理解を深めます。
衛生学Ⅱ	環境保健、産業医学についての講義、演習を行い、健康と疾病および関連する環境要因の概念について学ぶとともに、環境への予防的アプローチに果たす医師の役割についての理解を深めます。
公衆衛生学Ⅰ	「人々の健康を護り、増進させる」というゴールに向けて、どのような考え方が必要なのか、関連している法制度は何か、それに基づく公衆衛生行政について学びます。また栄養、身体活動、親子保健、思春期の問題、飲酒、喫煙など公衆衛生活動を行うために必要な基本的な事項について学習します。
公衆衛生学Ⅱ	コミュニティの組織的な活動を知ることで、リアルワールドにおける公衆衛生活動を具体的に学びます。また疫学研究の成果を国民の公衆衛生の向上にどのように繋げて行くのかを具体例から検証します。小グループでの調査も行い、地域・職域での健康増進のあり方から、グローバルな国際活動まで幅広く議論します。
法医学	医師として事故や事件を取り扱う場合に必要となる法医学的視点を学びます。死体のみかた、損傷、窒息、中毒、DNA鑑定、医療事故などについての講義が行われます。
医療政策・管理学	日本の医療は社会化されており、臨床の現場において医療経済、医療制度、医療情報、医療安全を理解しておくことは重要です。本科目では国際的な動向をふまえ、今後の展望について講義を行います。

基礎・社会医学系科目

自主学習	日吉の基礎科目から、基礎医学、社会医学、さらには臨床医学の多岐にわたる分野からのさまざまなテーマから、学生自らが選択し、各教員の指導のもとに、自ら考えながら実験や調査研究を行う「一人独立型」の科目です。その成果を、それぞれ報告書にまとめることで、論文執筆の方法を学び、さらに、ポスター形式による成果発表会を行うことで、研究発表や討論の方法も学びます。
------	---

自主学習

E E P Ⅱ	在宅医療、小規模クリニックなどの学外の医療機関を見学し、common diseaseの治療の現場を体験するとともに、地域医療における医療包括ケアの仕組みについて学びます。
内科学	内科診察に必要な診察手技の修得、病態の理解に基づいた診断と治療の実践をテーマに講義と実習を組み合わせたカリキュラムとなっています。消化器、呼吸器、循環器、神経、腎臓、内分泌代謝、血液、リウマチ、感染、医学のすべての領域を網羅します。
外科学	臨床実習が主要テーマとなります。8週間で、一般・消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科の4科を回り、手術見学、病棟回診、小講義、各種実習を通して外科学を学びます。
脳神経外科学	脳あるいは頭蓋内に発生する腫瘍、血管障害、外傷、先天異常などの疾患と病体を理解し、脳神経外科手術の特殊性などを学びます。

臨床医学系科目

科目名	科目内容
産科学	生殖医学・周産期医学を通じてヒトの受精から誕生を体系的に学ぶことを主眼とします。外来実習において不妊症治療や妊婦・胎児健診の実際を学び、病棟では妊娠・分娩管理・産科手術の見学なども行います。実習期間中には若手医師の指導のもと症例提示を行い、臨床の場で求められるプレゼンテーションのエッセンスも修得します。
婦人科学	女性の生涯を母性を基本とする機能的見地より解説し、併せて婦人科的主要疾患に関して重点的に講義します。実習は2週間で、外来実習と手術見学を含む病棟実習に分かれ婦人科疾患に対する対応を学びます。
小児科学	小児期に特有な成長発達概念、疾病の全体像、その他小児保健全般に関する知識を修得します。実習では、病棟に配属され、病棟医長の指導のもとで患者を受け持ち、診察、一般検査を行います。外来実習は交代で行います。
精神医学	精神の障害だけでなく、緊密な心身の相互関係を学ぶこと、患者の全人的理解を深めることに主眼を置いています。講義は総論(精神科症候学)、各論(精神疾患論)に分かれますが、さらに社会における精神医学の役割についても講義します。実習は2週間行います。
整形外科	機能外科に必要な運動器(骨関節・軟骨・神経・筋肉・靭帯など)に関する系統講義と臨床講義を行います。臨床実習は外来と病棟で2週間行い、できるだけ多くの手術を見学します。さらにproblem-based learningに基づき、実際の症例をみんなで議論しながら、診断や治療法を導く過程を学びます。
麻酔学・緩和医療	麻酔学の活動領域と理念について講義で知識を与え、実習は手術室、一般集中治療室、ベインリックなどで2週間行います。救急蘇生法や呼吸管理、人工呼吸器の使用法についても学びます。また、癌が進行し、十分な治療を期待できない場合に、疼痛や不安を積極的に解決する緩和医療、疼痛管理に加え、緩和的化学療法、放射線療法などの多面的アプローチについて学びます。
臨床検査学	臨床検査の進め方、検査成績の読み方などの訓練を通して、検査診断の基本的な考えを学ぶことを目標としています。このためにそれぞれの専門領域の教員によって臨床生化学、臨床血液学、臨床微生物学などの講義、実習が行われます。
放射線医学	放射線の物理学、生物学をはじめ、X線診断学、放射線治療学、核医学や放射線予防法の法規、対策についても講義します。画像診断についてはX線検査、CT、MRIなども含み講義、実習を行います。
泌尿器科学	尿を生成する腎臓、また副腎や男子性腺などの機能と病態について正確な概念を得させた上で、診断治療がいかに行われるかを示します。実習では2名の患者を実際に受け持ち、指導医のもとで診断などを学びます。
耳鼻咽喉科学	耳鼻咽喉、頭頸部、気管食道の解剖、生理、病態について講義で修得し、他臓器との関わりについて学びます。特に聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚などの感覚器障害、摂食・嚥下、音声・言語機能障害、免疫・アレルギー疾患、頭頸部癌など多彩な疾患の学習が特徴です。実習では顕微鏡や耳鏡・鼻鏡、内視鏡の使用法の修得を含めた耳鼻咽喉科診療の基本手法から外来検査、入院患者の検査、各疾患の治療法などを修得します。
眼科学	眼科学の特殊性および理念に関して、特に全身疾患との関連において講義が行われ、実習は小児眼科からME実習や外来、病棟実習まで広い範囲にわたって行われます。
皮膚科学	皮膚疾患に関する基礎知識と理論的思考方法を体得し、同時に問題解決能力や臨床医として必要な態度、技能を身につけます。実習では病歴聴取から指導医のもとで実際の診察、治療法の修得までを行います。
救急医学	講義では、救命治療、軽症から重症の救急患者(急病、外傷)のER診療、および災害医療を学びます。実習では、救命治療シミュレーション、救急車同乗、慶應義塾大学病院および関連施設ERでの救急診療への参加を行います。
形成外科学	各種の先天異常、悪性手術切除後や外傷などによる身体各部の変形や欠損に対して、形態と機能の障害を復元し、QOL(生活の質)を高め社会復帰を援助する学問です。総論、各論についての講義と1週間の臨床実習から構成されます。臨床実習中には手術に参加することもあります。

臨床医学系科目

科目名	科目内容
リハビリテーション医学	運動障害・認知障害の専門的な診断・評価・治療を通して、障害の予防、最大限の機能回復、生活機能の再建、QOL向上を図るリハビリ医学を学びます。実習では運動障害の診断と問題点のとらえかた、リハビリ処方の方法や筋電図・嚥下造影・神経ブロックなど、さまざまな手技を体得します。神経筋疾患や骨関節疾患に加え、呼吸器・循環器疾患、がん、移植医療、脳可塑性への働きかけ、再生医学など拡大しつつあるリハビリ医療の最先端の動向も学習します。
歯科学	歯および口腔の構造、機能、疾患についての基礎知識を修得することを目標とします。実習は主に歯科・口腔外科での外来見学、手術見学、X線診断、口腔衛生管理の実際などを学びます。
総合診療医学	患者さんが受診する特定の診療科を決めるのが困難な場合、健康診断でいくつかの臓器にわたる異常を指摘され、受診する診療科に困った際など、一専門分野に限定することが難しい患者さんを診療します。
感染症学	感染症がおこる場所(市中か医療機関か)やホストの免疫能および感染臓器と起原菌を念頭にした感染症の適切な診断(診察法、培養法を含む各種微生物検査)、治療(抗菌薬の適正使用)、予防法(感染対策、ワクチンなど)を講義と実習を通して学びます。
臨床薬理学	臨床で使用されている薬剤の名称、形状、用法・用量、効能・効果、適用上の注意などに関して、薬効群ごとに代表的な薬剤を例に挙げて講義します。
漢方医学	西洋医学とは異なった医療体系である漢方医学の長所・短所をよく理解し、両医学の融合によってもたらされる治療の可能性とその留意点を学びます。
腫瘍学	がん診療の基本を理解したうえでエビデンスの解釈・活用、ガイドラインの利用方法を横断的に学び、個々の患者の状況に応じた最適ながん診療の基礎を学ぶことを目標とします。
遺伝医療・ゲノム医療	遺伝子・ゲノム異常により先天異常からがんまで多様な疾患が発生します。発症機構・患者さんの病歴の取り方・ゲノム解析結果の解釈・遺伝カウンセリングの基本を学びます。
症候学	臨床実習開始前に、すべての臨床科目における診断学を横断的に学ぶため、症例ベースで、主要症候別に、臨床経過、身体所見、各種検査所見から、診断にいたる臨床推論を学びます。
臨床実習入門	臨床実習に向けて、基本的臨床技能を修得します。客観的臨床能力試験(OSCE)の課題となっている臨床技能に加え、診断に必要な各種検査の実施と、検査結果の解釈について学びます。
輸血臨床実習	輸血に関する知識、あるいは血液型判定、血液交差試験の手法など、臨床医として必要な項目に関して主に実習を通して修得します。実習には外部施設での研修、見学なども含まれます。
病理診断実習	病理学教室、病理診断部で行っている診断業務に直接参加し、病理組織診断、病理解剖、細胞診、術中迅速診断、あるいは臨床各科との連携について知識、技術などを学びます。
地域基盤型臨床実習	学外の地域医療を担う病院において4週間の臨床実習を行います。大学病院とは異なる医療システムにおいて、プライマリケア、病診連携など地域医療の現場を体験し、多様な医療システムに対応できる総合的な臨床能力を身につけます。
選択型クリニカルクラークシップ	慶應義塾大学病院内の1つの診療科を選び、4週間、医療チームの一員として臨床実習を行う。
選択臨床実習	クラスター診療科での臨床実習、すでに臨床実習を行った診療科でのさらに発展した臨床実習、学外の地域医療実習などから、各学生の希望により選択し、臨床実習を行います。
臨床能力総合評価	すべての臨床実習終了後、学生が身につけた臨床能力を、本学の卒業時コンピテンスに基づき、総合的に評価します。
基礎臨床統合医学	臨床実習もある程度進んだ段階で、あらためて基礎医学の知識を結集して、トピックとなっている医学分野での話題を総合的に理解します。
CPC	臨床各科および基礎系教員が病理解剖例を用い、症状、検査成績、病理所見を含め、病態の経過などについて検討、討論します。症例は予めプリントして周知されます。診断能力養成に重要なミーティングです。

臨床医学系科目